

ISSN 2189-4930

日英教育研究会

ニューズレター

第11巻 第1号

(通算21号)

2026年7月15日

日英教育研究会
東京

目 次

巻頭言	鈴木愼一	1
随想		
日英の社会教育・成人教育の探訪	上杉孝實	2
論考		
日本の大学における名誉教授制度の歴史と現状	浪本勝年	12
本棚一図書紹介		
The Bloomsbury Handbook of Theory in Comparative and International Education	鈴木愼一	24
総会記録		30
ABSTRACTS		49
編集後記		51

巻 頭 言

鈴木慎一*

2026年度の定期総会を終えて、日英教育研究会の事務局は顔ぶれが新しくなりました。50歳前後の方々が揃い、頼もしい限りです。並行して経験の豊かな方々も事務局の責任を分担しておられて、私たちの事務局はこれから積極的に日英教育研究会の仕事をこれまで以上に豊かなものにしていくと思います。私は幹事として事務局をサポートしますが、90歳代の人間に相応しい範囲でお手伝いをいたします。

今回は、上杉孝實会員の記事と浪本勝年会員の記事が収録されています。わたしも図書紹介の記事を寄せました。今回寄稿する3名の会員は、いずれも定年で一度は勤務していた大学を離れた会員です。「書く」という仕事が高年齢になっても失われないことを、私は正直少し驚いています。どれだけ読みやすいか、これは確かに問われますが、書くことの大事さを改めて思います。

どなたも忙しい日をお過ごしと思いますが、この『ニューズレター』は固有の意味で、自分が日頃考えたり疑問視したり想像していることを文字を通して表現できる「場」なのです。会員の皆さまも積極的にご利用ください。自分の表現する力がどの程度のものであるかも振り返ることが出来る、お金のかからない「場」でもあります。文字を綴り自分を表現する自分の力を鍛えることが出来る、身近かにある貴重な「場」でもあります。自分を鍛えませんか。

何年か『ニューズレター』の編集をしてきて、早稲田大学出版部のMDコーナーには大変お世話になりました。私の在任中にこのコーナーはありませんでした。授業で馴染んだ14号館の一階にあるこの事務所に通って、どのようなつくりにするか、紙質や表紙の色をどうするかなど、種々相談にのってくださった方々に改めて感謝します。有難うございます。

私は、編集の実務から離れますから、何か書くことを通じて会員各位と、会の外側の方々との繋がりを探してみようかと思っています。お互い体を大事にいたしましょう。

* 早稲田大学名誉教授